



# War Cry

7月号

福音版  
2023  
July  
No.2854

二〇二三年 七月一日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

## 神の愛と救いを 伝えるために

松末 泰志

今回、この公報『ときのかえ』を読んでおられる方々の中には、救世軍をご存じの方も、今まで聞いたことがない団体だという方もおられると思います。私は知人の勧めでフェイスブックを始めたのですが、私の「救世軍士官（伝道者）」

という自己紹介で初めて救世軍を知り、その興味から友人申請を寄せられる方々があります。

救世軍の発祥の地は英国ロンドンです。七月二日は救世軍の創立記念日であり、今年で百五十八周年を迎えます。一八六五年、ウイリアム・ブースという、各地で宣教する伝道者が、当時のスラム街であった東ロンドンでの宣教活動に招かれました。そこで見た、生活が貧しく道徳が乱れた人々、将来の希望を失っている人々にこそ、キリストの愛と、キリストを信じて得られる本当の幸福を伝えることが使命だとブースは感じたの



でした。それが、後の救世軍が発足するきっかけでした。働きが進む中でブースは、人々の置かれていた困難な環境のなかで信仰を伝えるには、まず衣食住などの提供、アルコールやギャンブルなど悪習慣の断絶の手助け、社会復帰のための具体的な対策の実践が不可欠である、との認識に至りました。更生した人々がさらに他の人々を救い出すという動きの中で、この働きが神の愛を伝え、愛をおこなう神の軍隊、救世軍として発展し、世界各国に広がっていききました。日本では一八九五（明治二十八）年に働きが開始され、今日に至っています。

救世軍の働きの動機は、すべての人が、聖書に書かれている事柄を信じ受け入れるようになることです。聖書はこう主張します。一人間は、どれほど正しく見える人だとしても、罪をもった存在であり、神に背き、自己中心に生きる的外的な歩みをしています。そのままでは罪のために滅びるほかありません。しかし神は、人間を愛するがゆえに、罪のない神の独り子イエス・キリストをこの世に遣わして、その十字架の死

と復活を通して、人間の罪の問題を解決してくださいました。それは、信じるすべての人に例外なく開かれている救いの道であります。皆さんがキリストを信じるならば、どんなにこの世の財産、地位、名誉を手に入れたとしても満たされることのない、果てしない人間の欲望に囚われることなく、しっかりとした人生が歩めることでしょうか。また、この信仰を通して、苦難も多いこの世での人生の良き逃れ場を見いだし、心の平安を得ることができるよう。

私は、キリスト教に縁のない家庭で生まれ育ちました。しかし、私が十六歳の時に、私が生まれる前に既に亡くなっていた祖父が救世軍の信徒だったと知り、その興味だけで救世軍の小隊（教会にあたる）の集会に行ったのでした。初めて足を運んだ救世軍の会館は古く、集会の出席者も年配の方ばかりでした。そこで私を迎えてくださった温かい雰囲気、集う人々からごく自然に表れ出る優しい品性に魅力を感じました。ある信徒の方は、「以前の私は本当に気性が荒かったのです、当時の小隊士官（牧師にあたる）は、「私は、かつて競馬にのめり込み、路上生活を体験し、救世軍の宿泊所でお世話になっていました」と語られ、皆さんが救いの招きを信じ受け入れたことによって、変えられたことを伺いました。初めて聞く聖書の話はわかりませんでした。集会の雰囲気と、彼らの品性を通して、この信仰こそ本物に違いないと実感できたのでした。かつて救世軍は、信仰を通して人々を更生させるので、「人間改造所」と評されました。やがて私も救世軍でクリスチャンとなり、そして現在は伝道者として奉仕させていただいています。以来三十六年、初めて救世軍の集会に足を運んだあの日の経験は、今でも忘れることができません。

「神は、その独り子（イエス・キリスト）をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」（ヨハネによる福音書3章16節）

ぜひ、あなたも救世軍にお越しく下さい。そこで、神があなたを愛しておられることを知り、本当の生きがいを見つけることができます。救世軍士官（伝道者）



## 神様の愛と、小隊での交流のなかで

加藤 あゆみ さん  
加藤 光次郎 さん

(救世軍月島小隊所属)

救世軍の小隊(教会にあたる)は、人々が集い、神に礼拝を献<sup>ささ</sup>げる場所です。そこにはまた、温かい交流があり、励まし祈り合う仲間がいます。小隊に集い、信仰の生活を続ける加藤光次郎さん、あゆみさんの証言です。

### 加藤あゆみ

私は救世軍士官(伝道者)の子どもとして生まれ育ちました。「光の子として歩みなさい」(エフェソの信徒への手紙5章8節)という聖句から「あゆみ」という名前を付けてもらいました。

私は幼少期から自分に自信をもつことができず、自分のことが好きではなく、自分は何をやっても上手くいかない人間なのだと感じていました。そんな中、

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」(イザヤ書43章4節 新改訳聖書)

という御言葉に出会い、神様の存在が本当の意味でわかり、こんな私でも神様が愛してくださっていることに気がつき、少しずつ自分を好きになることができるようになりました。

二〇〇〇年には、アメリカで開催された救世軍の万国大会に参加しました。この時に初めて海外の救世軍にたくさん触れることがで

き、中でも現地のスタッフ・バンドの演奏が特に印象に残りました。私は中学・高校と吹奏楽部に所属しており、小隊でもラッパを吹いていたので、ブラスバンドは好きだったので、「私もいつかこんな演奏をしてみたい」という思いを抱くようになりました。帰国して間もなく、当時のジャパン・スタッフ・バンド(JSB)の楽長からメンバーになるよう、誘っていただきました。JSBではたくさんの賛美の曲を演奏し、色々な会場で吹く機会が与えられました。その中でも英国で開催されたISB120というイベントで、世界のスタッフ・バンドの人たちと一緒に演奏ができたことは一生の思い出です。

また、自分に自信をもてなかつた経験から、人の力になれるような仕事をしたと思うようになり、精神保健福祉士という資格を取得し、今は精神障害や発達障害を抱えている方たちを支援する仕事をしています。

救世軍で出会った夫と二〇〇八年に結婚し、二人の娘を授かり、現在は家族四人で暮らしています。

長女は二歳の時に、先天性白内障という目の病気の診断を受け、手術をしましたが、生まれつき目が白く濁っており、手術で濁りを除去しても視力が全くない状態です。そこから回復するのはかなり大変だということがわかり、大きな悲しみを覚えました。聖書の中に目が見えない人の話があります(ヨハネによる福音書9章)。

「この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか」という質問に対し、イエス様は

「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである」

とお答えになったことが書かれています(3節)。長女の目が見えないことがわかり、目が生まれつき見えないのは「神の業が現れるため」だと思いつつ、長女の視力の回復を信じることができました。また、このことでたくさんの人に祈っていただき、支えていただきました。今は長女の視力も、「日



2011年、ISB120。ロンドンのロイヤル・アルバート・ホールで、世界8つのスタッフ・バンドの合奏に加わった(最後列中央)

常生活でストレスを感じない程度」まで回復しており、専門病院からも卒業し、近所の眼科クリニックで定期受診をしている状況です。

長女が四歳の時に次女が生まれました。次女は、赤ちゃんの頃から誰に対しても人見知りをすることがなくニコニコと笑顔で接しているような、人懐っこくて明るい性格です。また人の名前を覚えるのが得意で、保育園に行くとき先生やお友達の名前を呼んで話しかけています。保育園にお迎えに行った際に、担任ではない先生から「いつも名前を呼んでもらえて嬉しい」と声をかけていただいたことがあります。そんな次女の

\*1 救世軍の本營に所属するブラスバンド

\*2 ロンドンにある救世軍万国本營付きの「インターナショナル・スタッフ・バンド(ISB)」の設立120周年を祝ったイベント

様子からふと、イザヤ書四三章一節の

「あなたはわたしの名を呼ぶわたしはあなたの名を呼ぶ」といふ

という聖句が思い浮かび、神様が私たちの名前を覚えて名前を呼んでくださっているように、次女も周りの人の名前を覚えて親しみを込めて呼んでいるように感じ、私もそのようなになりたい、と思われました。

現在、夫は夜勤のあるシフト制の仕事、私はパートタイムで勤務、長女は小学校、次女は保育園とそれぞれ時間を過ごしており、家族全員で過ごす時間は意



左から、光次郎、母、長女



娘二人とバンド練習に参加

外と少ないので、家族で過ごす時間を大切にしたい、と思っています。特に日曜日に家族全員で小隊へ行く時間を大切にしています。

最近、私たちの所属する月島小隊で、合唱の練習をするようになりました。コロナ禍で小隊に行くことが難しくなった期間もずいぶん長かったので、毎週小隊の皆さんと顔を合わせて一つのことに取り組めるようになったのはとても感謝なことです。私はピアノ伴奏の役割をいただいています。ピアノは小学生の頃に少し習っていた程度で、人前で弾くのも恥ずかしいレベルなのですが、長女が二年ほど前に「ピアノを習いたい」と言ったのを機に自宅にも電子ピアノを購入し、毎日長女と一緒にピアノの練習をするようになりました。小さな者ですが、これからも毎週日曜日には小隊に通い、できる奉仕をさせていただいています。

私はいわゆる反抗期という反抗期はなく、救世軍の

### 加藤光次郎

私は、救世軍士官の両親と三人の兄弟がいる家庭で生まれ育ちました。私の幼少期は両親、特に母には大変苦労をかけたと思います。私は自分の不注意による怪我が多く入院が二回、兄弟たちは反抗期真っ只中でしたし、育ち盛りで家計の面でも苦労をかけたと思えます。

私が小学校高学年になった頃には、兄弟たちはアルバイトで得たお給料が必要なものを買うようになり、家計の負担はいくらか軽くなっていたのかもしれない。母は剣道を習いたいという私のわがままを聞いてくれました。兄弟は年の離れた私をかわいがり、バイト代で私を遊園地や映画館などに連れて行ってくれたこともありました。自分も高校生になったら絶対にバイトしようと思いましたが、いざ高校生になってバイト面接を受けにくくと、すべて不採用となりました。兄弟や周囲の人たちと何が違って何がダメなのだろうか、と悩んでいました。

日曜日の聖別会(礼拝)には習慣で毎週出席していましたが、十代の終わり頃、小隊の先輩に勧められ救世軍のブラスバンド練習に参加しました。それまでは、剣道がメインで、金管楽器は小学校の運動会の鼓笛隊で短期間吹いたぐらいだったので新鮮でした。毎週土曜日夜のバンド練習では、楽器演奏の他にも賛美の歌を歌ったり、祈りや交流があり、神様の愛を深く知る時となりました。特に、救世軍のミュージカルの歌で「I'll Need Christ(邦題:社会のすみで傷つき)」という歌が私の心に刺さりました。「夢や希望を失い うつむく青年に 助けの手を伸べるのは 君さ 僕さ イエスさ」という歌詞です。歌詞の中の青年が自分と重なり、イエス様が必要だと思ひ、祈りました。

その頃、聖書の学びに自分の意志で参加するようになり、日々の生活の中でも読むようになっていました。聖書を読み、クリスチャンとの交流をもつ中で、自分の内側にあるそれまで気づいていなかった罪に苦しくなりました。そんな中、次の聖書箇所が心に留まりました(マタイによる福音書9章)

「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。……わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」(12、13節)。

「神にはできませんでした。「神にはできる」という信仰が母を支えていたのだと思います。私が夜中に目が覚めて起きた時、祈りながらそのまま寝ている母を目撃したことが何度もあります。また私が小学生の時、同級生に「あなたのお母さんはいつもニコニコしているよね」と言われたことがあります。当時の私はそれがなぜか嫌でしたが、自分が信仰をもつてからは、母は聖書の勧める生き方をしていたんだとわかりました。

今、仕事や子育て、奉仕で悩むことはあります。母から直接教わることはもうできませんが、私も神様に祈りながら寝てしまうぐらいいよく祈り、いつも喜んで歩んでいたらと願っています。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」(テサロニケの信徒への手紙一 5章16、18節)

昨年、母が召天しました。まだ私が小学生の頃、思春期の姉と私を育てながら

小隊の牧会責任を担っていた母は、何事にも一生懸命取り組んでいました。自分の専門外だとしても、必要なことには引いた姿勢を取りませんでした。「神にはできる」という信仰が母を支えていたのだと思います。私が夜中に目が覚めて起きた時、祈りながらそのまま寝ている母を目撃したことが何度もあります。また私が小学生の時、同級生に「あなたのお母さんはいつもニコニコしているよね」と言われたことがあります。当時の私はそれがなぜか嫌でしたが、自分が信仰をもつてからは、母は聖書の勧める生き方をしていたんだとわかりました。

\*3 イエスの時代、大きな影響力をもっていた宗教的地位の高い人々の一派

創立者 ウィリアム・ブース 大将 ブライアン・ペドル (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区)



世界をみつめて

〈国際緊急支援〉トルコ・シリア大地震被災地支援 続報

今年2月に発生したトルコ・シリア地震は甚大な被害を引き起こしました。救世軍はトルコやシリアで直接の活動拠点がないため、両国で活動している非政府組織 (NGO) とパートナーシップを組み、以下の救援活動のための資金の援助をしています。

「ゾア (ZOA)」は2015年からシリアで活動している団体でダマスカスとアレppoに事務所があります。地震発生後、ゾアは、地元の協力者と共に、食料、水、避難所でのマットレスや毛布の提供、現金支給、また、建築技師のチームを雇い、家の安全性を確認するための建物訪問を実施しています。ゾ



避難所で暮らすハンナさんと家族

アが食糧と運営を支援しているアレppoの緊急避難所に両親と弟と一緒に避難しているハンナさんは、家の建築検査が終わり帰れる日を待っています。

日本の救世軍での募金は米国の救世軍を通し、現地での支援活動に用いられています。米国の救世軍の国際支援機関SAWSO (Salvation Army World Service Office) は、「コンボイ・オブ・ホープ (Convoy of Hope)」と協力し、トルコとシリアの被災地 (サンリルファ県、ガジアンテプ県、ハタイ県、アディヤマン県、マラティヤ県) で物資を配布しています。人々は食料、水、衛生用品、赤ちゃんのケア用品を受け取っています。5月半ばまでに、23,760人に食料セットを提供してきました (237,600食分)。各家族用の食料セットには、米、レンズ豆、パスタ、小麦粉、油など、必要な食料品が入っています。



コンボイ・オブ・ホープからの支援物資を受け取った人 (アディヤマン県)

〈ケニア〉干ばつ地域への支援

「アフリカの角」と言われるアフリカ東部の地域では、ここ数年、深刻な干ばつが続いており、内戦や紛争などの政情不安も重なって、食糧危機が発生しています。ケニア東部の救世軍では、SAWSOと協力し、食料品セットや衛生用品を配布し、ニーズを抱えるコミュニティへの支援をおこなっています。



〈韓国〉創立115周年記念集会

韓国の救世軍は今年、創立115周年を迎え、4月30日～5月7日に世界の救世軍のリーダーであるブライアン・ペドル大将夫妻を迎えて記念集会をおこないました。

韓国の救世軍は2012年からカンボジアに士官 (伝道者) を派遣しており、4月30日にはプノンペンで、カンボジア伝道11周年を祝う礼拝をし、122人の人々が新しく救世軍の兵士 (信徒) となりました。また、カンボジアで初めてとなる士官の任官式がおこなわれました。5月4日からは韓国で、伝道集会や記念礼拝、賛美集会などがおこなわれました。多くの人々が集い、大将夫妻は、すべての兵士が神の召しに従い、聖なる生活を送るように、とメッセージをしました。



**救世軍とは? What is The Salvation Army?**  
心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、世界133の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました (1面メッセージ参照)。

日本では1895 (明治28) 年に英国から士官 (伝道者) が来日して、救世軍の働きが始まりました。日本人で最初に救世軍士官となった山室軍平は、平易な言葉で聖書のメッセージを伝え、小隊 (教会にあたる) を拠点として伝道を進めるとともに、<sup>(はい)</sup> 廃娼運動や結核療養所の設立をし、日本の医療、社会福祉分野での先駆者の一人にも数えられています。現在、日本では全国41の小隊、2つの病院、19の社会福祉施設を通して働きを進めています。



救世軍公報 ときのこえ  
発行日 福音版 / 毎月1日、広報版 / 奇数月15日  
定 価 福音版 / 1部40円、広報版 / 1部100円 (税込)  
振 替 クリスマス特集号 (12月1日号) / 1部100円  
00180-5-4400  
発行兼 救世軍  
印刷人 代表者 スティーブン・モーリス  
編集人 山谷 真  
発行所 救世軍本営 <https://www.salvationarmy.or.jp>  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17  
電話 03-3237-0881 (代表)  
Mail [jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org](mailto:jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org)  
印刷所 ピーアンドエス

聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。

- ・私の近くの救世軍を紹介してください。
- ・キリスト教についてもっと知りたいです。
- ・『ときのこえ』の購読を申し込みます。
- ・相談を希望します。